

Color &  
Good Looking  
Products!

#1  
Tanner



広大な展示スペースに、多種多様な馬革が並ぶ。色も加工も様々で、改めて新喜皮革の技術力の高さを知ることができる空間だ



コードバンのコインケース(右)と名刺入れ(左)。使うほどに艶が増していく。コインケース16,800円。名刺入れ18,900円

オール馬革のドキュメントケース。ネイビー、ブラック、ブラウンを取り揃える。丈夫で軽い馬革は、ビジネスパーソンに最適だ。29,400円

Factory



新喜皮革



内装まですべて馬革の、同ブランドらしいバッグ。容量が大きくポケットの数も多いが、馬革であるため驚くほど軽い。78,750円

「本来の風合いが、使うごとに味わい深い色味に変わっていく。コードバンや馬革の魅力を、使ってみてさらに実感していただきたい」  
様々な職人の努力の結晶が、コードバンとして光輝く。そしてコードバンを持つユーザーの喜びは、この光を磨いていく喜びでもあるのだ。

「コードバンの魅力をだれよりも知る新田さんは、その名もコードバンという会社を立ち上げ、製品づくりという新たな取り組みをスタートした。新喜皮革のコードバンや馬革をぜひたくに使用したブランド「ウォームスクラフツ・マニユアクチャー」の特長は、「革ありき」ということ。革をまず見て、その質感を引き出すデザインを決定するため、製品は細部までコードバンや馬革の独特の風合いを堪能できる。例えばコードバンの重厚感を活かすべく、ほとんどの製品は切れ目仕

上げた。  
「コードバンの魅力をだれよりも知る新田さんは、その名もコードバンという会社を立ち上げ、製品づくりという新たな取り組みをスタートした。新喜皮革のコードバンや馬革をぜひたくに使用したブランド「ウォームスクラフツ・マニユアクチャー」の特長は、「革ありき」ということ。革をまず見て、その質感を引き出すデザインを決定するため、製品は細部までコードバンや馬革の独特の風合いを堪能できる。例えばコードバンの重厚感を活かすべく、ほとんどの製品は切れ目仕

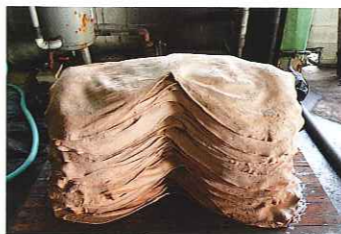
隠された宝石が姿を現すまで、手を動かす



タンニンなめしの他にクロムなめしも行う。薄く頑強な胴体部もニーズは高い



ガラスで革を磨くグレーズ加工。この作業により独特の光沢が生まれる



なめし後のコードバン。タンニンが繊維に行き渡り、皮から革へと変貌を遂げた

column

100頭に1、2枚  
特に貴重なかたちとは

コードバンの中でも特に生産が難しいとされるのが、ランドセルとベルト用のコードバンだ。ランドセルのカバー部分(かぶせ)には一定の大きさの基準があり、新喜皮革ではかぶせ用の枠を当てて基準をクリアしているかチェックする。また、ベルトは左右の端部が繋がった「メガネ」と呼ばれるコードバンが使われる。どちらも100頭に1、2枚しか存在しないというから、その希少さは際立っている。



透させていく。その後乾燥を経て、3〜4月ほどかけて熟成させていく。一般ではここに加脂や染色などの後処理を経て完成となるが、ここからさらに手間がかかるのがコードバンだ。実は、コードバンとは革の内部の繊維層を指す。その部分を露出させるため、専門の職人が皮を裏側から少しずつ削っていくのだ。そうして露わになるコードバンの艶と輝きは、まさにダイヤモンド。かくして、原皮から完成に至るまでおよそ10カ月。コードバン部分以外の馬革は、クロムなめしの場合20日間ほどで仕上がることを考えると、その特別さがわかるというもの。「コードバンの大きさは、削ってみないとわからない。時には傷がある革もある。だからランドセルのかぶせに使われるような大きい革は、とても希少性が



通常、なめしはドラムで行われるが、同社ではビット槽なめしを採用している。木製の槽を使っているため、タンニン液が地面に直接流れ込むことがなく、環境にやさしい



コードバンならではの「削り出し」作業。力加減を微妙に変えながら革を削りコードバンを露出させる。一人前になるまで3年は要する高度な技術だ